



## 前を見て進むことができた2学期 3年 大沼玲央那

1学期、私たち3年生が輝ける舞台の1つだったはずの地区総体、そして中文連が中止になり、私たちは悲しさと悔しさの中にいました。この状況が続けば、行事が多く中学校生活最後の思い出となる、1番楽しいはずの2学期もどうなってしまうのだろうと、不安でいっぱいでした。



しかし、2学期が始まってみると、様々な学校行事が私たちを待っていました。運動会は午前中のみの開催でしたが、だからこそ全力で準備や競技に取り組めたと思います。応援合戦も、声を出せない分、学年をこえた団結力が求められ、より絆が深まりました。研修旅行では、沖縄から佐渡島へと急遽変更になったとはいえ、中止する学校が多い中、貴重な思い出をたくさん作ることができました。合唱コンクールは、コロナ対策を万全に行う中で練習し、やまぎんホールという素晴らしい環境で本番を行いました。広々とした会場に歌声が響くあの景色は、とても心に残るものとなりました。

どれも例年とは違う形でしたが、どの行事も笑顔で終えることができました。それは、様々な面で計画・調整してくださった先生方、そして協力してくれた家族のおかげだと思います。多くの体験・学びを得ることができたことへの感謝を忘れずに生活していきたいです。そして今、行事で得た充実感を胸に、私たち3年生は自分の進路実現に向けて、勉強を頑張っています。自治会が作成したプリントでの朝学習、授業の間の10分休憩や昼休みも教室で黙々と、また教え合いをしながら、全員が一丸となって受験勉強に励んでいます。

先が見えない大きな不安からスタートした今年度でしたが、周りの方々からの支えがあり、私達はしっかりと前を見て進むことができています。1人1人が悔いなく、これまでの努力を实らせる3学期にするために、受験生としての自覚をもち、そしてやり切ったという自信を持って過ごす冬にしたいです。

2学期はたくさんのお客様に、神中のあいさつは素晴らしいとほめられました。教育実習に来た植松先生、4年ぶりに神中に復帰した深瀬先生もびっくりしていました。「神中生のあいさつには、心がこもっている」と言われたこともあります。素晴らしい伝統になっています。この伝統を創り上げたのが、1人の少年（横尾啓斗くん）だと、私は思っています。彼は、今も私に止まってあいさつをしてくれます。遅刻しそうになって走っていても、必ず立ち止まって「おはようございます」とあいさつをしてくれます。これが、3年間続いているのです。彼が1年生の時は、こんなにていねいにあいさつをしてくれる人はいませんでした。次第に、サッカー部の生徒が彼をまねるようになってきました。2年生になると、バレー部など他の生徒にもまねをする人が出てきました。彼が入学して3年目の今年、立ち止まってあいさつをする人も増えましたが、神中生のあいさつがとても美しくなったように感じます。横尾君が始めたあいさつが、3年間を通して神中生のあいさつへの意識を変えたのだと思います。「継続は力なり」です。「小さなことでも、続けることで世の中や社会を変えていけるんだな」と改めて思

ったところです。2学期は、主な学校行事を全てやりきることができました。これも、伝統を「継続」させ未来につなげていったという意味で、神中の未来に大きな力を与えた学期だと思います。来年は丑（うし）年です。自分の夢や目標に向かって、一步一步着実に前進できる年になることを期待しています。（終業式 校長先生のお話より）

